

令和3年度 第1回白馬村図書館協議会 議事要旨

日時：令和3年10月29日(金) 15:40～17:10

場所：白馬村保健福祉ふれあいセンター 学習室

区分	氏名	所属	出欠
委員	富山 正明	白馬村社会教育委員長	○
	横川 秀明	白馬村公民館長	○
	岩崎 伸子	白馬北小学校	○
	篠崎 千恵	白馬南小学校	—
	山崎 英俊	白馬中学校	○
	高橋 英子	公募委員	○
	長島 律子	公募委員	○
	澤 清美	公募委員	※
	山下 慎司	公募委員	※
アドバイザー	篠田 尚利	県立長野図書館	○
	朝倉 久美	県立長野図書館	—
	小澤 多美子	長野県文化財・生涯学習課	—
事務局	松澤 宏和	生涯学習スポーツ課長兼図書館長	○
	松沢 由美子	白馬村図書館司書	○
	大坪 裕子	白馬村図書館司書	○
	大熊 大智	白馬村図書館司書	—
	山岸 由美	白馬中学校図書室司書	○
	海端 弥生	白馬北小学校図書室司書	○
	渡邊 宏太	生涯学習スポーツ課生涯学習係長	○

※事前に内容伝達・意見聴取

1. 開会

松澤生涯学習スポーツ課長兼図書館長が開会を宣言した。

2. あいさつ

(富山委員長)

新型コロナウイルス感染症も落ち着き、冠雪と紅葉の時期を迎えた。

本日は、アンケート結果や令和2年度の運営状況、基本計画の進捗、新しい図書館等複合施設についてなど、多くの議事があるが、忌憚ないご意見をお聞かせいただきたい。

3. 会議事項

(事務局)

欠席している公募委員 2 名には、事前に資料を説明した上であらかじめ意見を聴取していることを報告した。

(1) 白馬村図書館と読書に関するアンケート結果について

(事務局)

資料1「白馬村図書館と読書に関するアンケート調査結果報告書」に基づき事務局から説明した。

白馬中学校と白馬高等学校を通じて生徒に回答を依頼したこともあり、回答者は10代が半数を占めている。また、Web フォームを用いたこともあり、若年層の回答者が多い傾向にあった。

(委員)

10代のうち、中学生と高校生の割合はどれくらいか。

(事務局)

中学生が3分の1、高校生が3分の2くらいである。

(委員)

若い世代の声をたくさん拾うことができているので、今後の参考にしてほしい。

(委員)

アンケートに応じているにもかかわらず、約半数の人が「図書館を利用していない」と回答していることに驚いた。どうすれば来てもらえるのか、回答にヒントが隠れていると思う。

(委員長)

図書館施設検討委員会でも「非利用者の声を聞きたい」という話をしてきた。中高生が回答していることもあると思うが、利用していない人の声に耳を傾けることも大切である。

(委員)

こういったアンケートを実施することも大切ではあるが、当初の検討委員会で時間をかけて議論してきたこともたくさんあるので、新たな図書館についてはアンケートよりもこれまでの検討を基本にしてほしい。

(委員)

たくさんの意見が出ることは良いことではあるが、全てを実現することはできないため、どのように優先順位をつけて取捨選択するのか難しい判断を求められると思う。

(2) 令和2年度の事業報告・利用状況等について

資料2「令和2年度白馬村図書館事業報告」に基づき事務局から説明した。

新型コロナウイルス感染症の状況により閲覧や端末使用等のサービスを制限した時期があったが、閉館はせず例年並みの開館日数を確保したこと、来館者数は3分の2程度に減少したものの、貸出冊数の上限を20冊に引き上げるなどの取り組みを行い、貸出冊数はほぼ例年並みであったこと等を補足した。

また、ボランティアについては感染症の影響により活動はなかったことや、広域連携事業として実施している他館返却については件数が増えていることについて説明した。

(委員)

相互貸借について、借受館が送料を負担するということであるが、利用者が増えても予算は足りるのか。

(事務局)

北アルプス地域の図書館間は巡回車両が回っているため送料は不要であり、県立図書館については県で負担してくれている。それ以外の図書館は送料を負担しているが、ある程度の予算を確保しているため、予算の範囲内で対応できている。

(委員長)

国立国会図書館の資料はどういった扱いになるのか。

(アドバイザー)

著作権が切れインターネットで公開されているもの、事前に承認を受けた機関で借り受ける「図書館間貸出しサービス」により閲覧できるもの、国立国会図書館に行かないと見られないものの3種類に分かれている。借り受ける場合には返却時の送料のみ負担することとなる。

(委員)

4-6月の来館者数が少ないものの、貸出冊数は増えている。20冊貸出等によるものか。

(司書)

在宅時間が増えたこともあってか特定の人が多く借りる事例が多かったように感じている。感染警戒レベルが引き上げられた際には、休校や分散登校もあり、小学生の来館が明らかに少なかった。閲覧席の制限等の感染症対策に加えて、スクールバスの試験運行もあったためか、感染状況が落ち着いた後も、小学生の利用が戻らない印象を抱いている。

(アドバイザー)

全県的に感染状況が悪化したときには、県内の9割近くの図書館が閉館していた。また、学校から寄り道しないで帰宅するよう指導されたという話もあり、小学生の利用は各地で減少していると思われる。平日に来られない分、週末に保護者と訪れてまとめて借りていくというケースも多いのではないか。

(委員長)

外国語本の貸し出しが年々増加しているが、来館者の傾向などに変化を感じるか。

(司書)

目に見えて外国人の来館者が増えているとは感じないが、旦那さんが外国人と思われるお子さんを連れてお母さんが読み聞かせのために外国の絵本を借りていくようなことは見受けられる。今までは外国語本について資料のリストのみを提示していたが、配置を変えて資料を見えるようにしたことも影響している可能性がある。

(3) 白馬村図書館基本計画の進捗について

資料3「第三次白馬村図書館基本計画の進捗状況」に基づき事務局から説明した。

(事務局)

前述のとおり感染症の影響により来館者数が減少したことを受け、新規登録者数や有効登録者数(年度内に一回以上貸出のあった利用者数)、レファレンス件数、相互貸借件数など、計画当初(前年度)から数値が低下したものもある。

今夏から雑誌4タイトルの購入を開始した。

郷土資料については、分類を見直したために点数が減少している。

インターネット予約について、感染症対策として積極的な利用を促した。

(令和3年度から貸出中ではない資料についてもインターネット予約を可能とした)

ヤングアダルト資料については、令和3年度にコーナーを設けて寄贈についても広く呼びかけている。実際に寄贈を申し出てくれた人もいるため、次年度以降は実績を報告できるとと思われる。

「イベント等のリサイクル本提供」について、これまで文化祭で実施していたが、令和2年度は感染症の影響で実施を見送った。令和3年度は11月に図書館で実施する予定である。

ケーブルテレビの活用については、下半期に実施できるよう検討しているが、内容について提案があれば伺いたい。

(委員長)

計画策定後間もないうえに、感染症の影響もあるので数字だけで評価するのは難しいが、リサイクル本の提供なども含めてと足を運ぶきっかけを増やせるよう取り組んでほしい。

(4) 白馬村図書館等複合施設の検討について

資料 4「白馬村図書館等複合施設検討委員会 委員名簿(案)」に基づき、事務局から説明した。

(事務局)

9月議会にて補正予算を計上し、図書館等複合施設検討委員会を設けて、候補地も含めて基本計画を見直すこととなった。「また会議を開催するのか」という意見もあるが、一から検討するのではなく、基本計画の見直しをするという前提で、検討過程を公開して進めていくことが重要と考えている。検討委員会は、来年度の夏か秋まで、2ヶ月に1回程度の頻度で開催していく予定である。

学識経験者として、県内外の図書館事情に精通している前県立長野図書館長の平賀さんをお願いしている。もう一人の学識経験者は、子育て支援もしくはまちづくり・官民連携等の知見を有する方で検討している。

平成28年に設置した検討委員会や有識者会議など一貫して委員として参加いただいている富山さんには引き続きお願いしたいと考えている。

前回の検討委員会では、幼保小中の全ての保護者会長・PTA会長・園長・校長に委員を務めてもらっていたが、今回はより多様な委員構成とするため、それぞれ1名ずつで調整している。

幅広い世代や属性の皆さんに永く利用してもらえる施設となるよう、福祉関係者や外国人経営者団体のメンバー、中高生にも委員として参加していただきたいと考えている。形式的な会議では意見しづらいと思われるため、少人数で対話するなど発言しやすい形を取りたい。

公募委員については11月4日まで募集中である。

財源確保について、個人版のふるさと納税は4月に新たに基金を設け、受け入れを開始している。企業版ふるさと納税については、8月に村の総合計画を包括的に記載した地域再生計画が内閣府の認定を受けたため、制度を活用できる状態になった。今後、個人・企業の両面で情報発信に取り組んでいきたい。

(委員)

前回の検討委員会では、役職付きの委員が年度で変わって経過の共有が大変だったが、今回はそういったことがないよう配慮してほしい。

また、担当課は総務課ではなく教育委員会ということか。

(事務局)

中高生についても現1~2年生を選出してもらおうよう学校をお願いしている。

生涯学習スポーツ課と子育て支援課が中心となり、教育委員会事務局で検討を進める。

(委員)

男女比は偏り無く選定できるか。

(事務局)

役職付の委員や中高生は性別などの属性ありきで選出できないが、全体の中で男女比や年代、出身地などバランスが取れるよう心がけたい。

(委員)

これまで様々なイベントなどを開催してきた「むらとしよの会」のメンバーを委員にすることはできないか。

(事務局)

団体として枠を確保することは難しいが、公募の枠の中であれば総合的に検討する。

(委員)

司書は委員にならないのか。

(事務局)

委員というよりは事務局に含まれる形で考えている。事務局として 1 名は会議に同席するようにしたいが、会議では委員の意見を聴く場としたい。

4. その他

(1) 電子図書館

(事務局)

県と市町村の協働事業として電子図書館の検討を進めていて、令和 4 年度・令和 5 年度は試験運用とし、令和 6 年度から本格運用を目指している。

プラットフォーム費用は県が負担し、コンテンツ（ライセンス）分を市町村が負担する。当初のコンテンツ費用については県も負担することとし、GCF（ガバメント・クラウド・ファンディング）によりコンテンツの上乗せも目指す。

令和 4 年度当初は購入コンテンツ 4,000 冊＋無料コンテンツ 10,000 冊とし、負担割合を均等割 10%＋人口割 90%とするため、白馬村の負担は年間 40,000 円程度の予定である。

令和 4 年度から白馬村を含む半数以上の市町村が参加予定である。

(委員長)

利用できるようになるタイミングで、住民への周知をしっかりと行い、利用者の感想などをしっかりと集めてより良い運用を目指してほしい。

(アドバイザー)

協働で実施する理由として、予算や運用の面で市町村単独ではハードルが高いというこ

とがあるため、告知等についても市町村の負担が少ないような形で効率的に実施していきたい。

(2) 図書館施設見学ツアーの開催

(事務局)

新しい図書館等複合施設の建設に向けて、県内の施設を見学するツアーを12月14日(火)に実施する予定である。検討委員会のメンバーに加えて、一般の方の参加も募集する。

行先は、塩尻市のえんぱーく、安曇野市のみらい、池田町のかえで等を予定している。広報はくばや行政ホームページ等で参加者を募る。

(3) 雑誌の購入について

(事務局)

令和3年度の夏から雑誌の購入を再開したが、利用者から「社会的・政治的な内容の雑誌も置いてほしい。自分が購読している雑誌を寄贈したい」という意見をいただいている。日本図書館協会の宣言の中に「多様な、対立する意見のある問題については、それぞれの観点に立つ資料を幅広く収集する」という文言があり、提供する資料に偏りが生じないよう寄贈を断っている状況である。今後、雑誌の予算を確保し、備える雑誌を増やしていきたいとは思っているが、すぐには難しい部分もあるため、限られた予算の中でどんな雑誌を置くのがいいか、委員の意見をお聴きしたい。

(委員)

定額で多くの電子雑誌を読めるサービスを利用しているが、多様なジャンルの雑誌があり、趣味嗜好も様々であるため限られた予算で選ぶのは難しいと思う。図書館でも定額で利用できるようなサービスがあれば検討しても良いのではないか。

(委員長)

他の図書館を見ると雑誌は読まれている印象があるが、買い揃えようとするときりが無い。ニーズを把握するのも難しい。分野を決めて代表的な雑誌を買ったり、他の図書館がどういった雑誌を購入しているか調べたりするくらいしかないのではないか。

(事務局)

そういったことを考慮したうえで、特定の年代や性別に偏らないよう心がけて、予算も踏まえて現在の選定にいたっている。

(委員長)

それぞれの分野の代表的な雑誌が選ばれていると思う。

(委員)

今回決めた雑誌を今後も継続的に買っていくのか。

(司書)

様子を見ながら検討していく予定である。

(委員長)

しっかりお知らせしたうえで、来館者の感想を聞くことも心がけてほしい。

(委員)

どれくらい保管しておくのか。

(司書)

検討中であるが、3～5年くらいは保管したいと考えている。

(委員)

せっかく購入を再開してもらったので、保管しておくバックヤードがあるのであれば、一度購入し始めたものは止めずに買い続けてほしい。

電子書籍にすることでタイトル数を増やせるのであれば、紙にこだわる必要はないと思う。

(委員)

雑誌のバックナンバーはニーズがあるのか。

(委員長)

ものによると思うが、特集などで色褪せない内容のものもある。流行を追うような雑誌よりバックナンバーとして価値のある雑誌を選ぶというのも一つの選択肢かもしれない。専門的ではあるが面白みのある科学雑誌のようなものも良いのではないか。

(委員)

書店に行っても雑誌は広い面積を使って面陳や平置きされている。ジャンルが幅広いため電子書籍で対応できるのであればそれに越したことはないが、バックナンバーの取り扱いなども含めて検討が必要だと思う。雑誌によっては、見返したときに歴史がわかる資料になるものもあると思うが、基本的には旬の情報が掲載されていて古くなると読まれないものが多いと感じるため、ある程度の割り切りも必要だと思う。

(アドバイザー)

一般的な電子雑誌の定期購読は個人を対象としたサービスであるため、図書館を対象としたサービスについては確認が必要である。今後、県と市町村の協働事業の中でも可能性があれば検討していきたい。

(4) その他（全体を通じて）

（アドバイザー）

アンケート結果にも「場所を知らない」という回答があったが、全国的に見ても図書館を日常的に利用している人は多くて3割程度と言われている。7割の人が利用していないからといって「図書館は不要だ」ということにはならない。体育施設や文化会館なども全市民が使うわけではない。それでも「あるべきもの」であり、白馬村の図書館が特段利用されていないわけではない。全国の図書館でも、どうすれば図書館に来てもらえるか・利用してもらえるか、悩みながら取り組んでいる状況である。

長野県図書館協会「これからの公共図書館研究会」の「サービス計画を考える分科会」において、事業計画・サービス計画の策定やアンケートの取り方などを議論している。アンケートの回答内容も多様であるが、来館者を見ている暑い・寒いの感じ方がそれぞれであったりするように、異なることは当たり前であるため、結果やコメントに一喜一憂するのではなく、雑誌の選定も含めて、どういった図書館にしていきたいかということをしっかり議論して方向性を出していくことが重要である。

塩尻市の図書館では、えんぱーくを作るときに雑誌の数を大幅に増やしたり、小説を減らして実用書を増やしたりして、多くの方に利用されている。どうありたいか、どう使っほしいかということをあらかじめ示したうえで、本や雑誌の種類などを考えている。

山やアウトドアなど、白馬村に相応しいタイトルはあると思うが、タイトルありきではなく、どんな図書館にしたいのかというものがあって、そのためにどういった雑誌があるべきかということを考えていただきたい。

（委員長）

一人ひとりの意見に全て応えることは不可能であるため、理念をしっかり意識して今後でも検討していきたい。

閉会

松澤生涯学習スポーツ課長兼図書館長が閉会を宣言した。